



祐介の目

大田ゆうすけ No.71
(福山市議会議員)

毎月1日号に掲載

道路が開通した後はその延長方向の鞆街道からリーデンローズを右折して産業道路を経由して笠岡方面へ抜けるルートを検討してはどうだろう。さらに松浜のゴム工場が北部産業団地等に移転していただければ、工場跡地から内港を抜けて一気に入江大橋方面に抜けるルート設定も可能だ。いずれにしても実現可能な路線を早急に検討し、計画変更するべきだと考える。

福山道路と鞆港フェリー

福山市内の国道2号は大阪市から北九州市の間で渋滞ラックキング2年連続最悪という結果が出た。三原のバイパスが開通したことにより、福山道路(バイパス)の整備は喫緊の課題となった。

しかし、福山道路の全通時期は未定であり、当面事業化された瀬戸―赤坂間を開通させて福山沼隈道路と合流し、現在の赤坂バイパスから国道2号に流入する車両を草戸町方面にも分散させる方針だ。福山沼隈道路は草戸大橋の下流側に側道の橋脚を建設中だが、本線の草戸町までの開通はまだ数年先になるだろう。

その後には計画されている多治米・川口線の工事には多くの立ち退きや困難な用地買収が見込まれ、非現実的な計画路線のように感じる。しかし、これが開通しないと福山道路は全通しないのだ。

そこで草戸町まで福山沼隈

鞆の問題もわかり。埋め立て架橋計画が中止となり、山側トンネル案も課題が多く、鞆の通過交通処理は解決の糸口が見つかからない状況だ。そこで、当面の打開策として、鞆の港内に県営のフェリーを就航してもらい、大型車両だけでも県営棧橋から対岸に渡すことができれば、町内の渋滞も緩和され、沼隈半島を観光バスなどで循環する周遊観光も成立する。

フェリーは時代遅れと感じるかもしれないが、鞆内フェリーこそ新たな観光資源になり、全国的に有名になるだろう。しかも、全国でフェリー航路が廃止されている状況の中、格安フェリーが売りに出ている。何十億円もかかるトンネルより何千万円のフェリーで代替してはどうか。